

文化財庭園保存技術者協議会 会報

2009.1 第13号

編集・発行：文化財庭園保存技術者協議会（代表：玉根徳四郎）

〒600-8361 京都市下京区大宮通花屋町上ル NPOみどりのまちづくり研究所内

TEL：075-341-2600 FAX：075-361-0961

評議会連絡所：〒606-8371 京都市左京区北白川瓜生山2-116 京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センター

TEL：075-791-9018 FAX：075-791-9342

東京連絡所：〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1-6-3福田ビル3F 文化財庭園保存技術研究センター

TEL：03-3202-5233 FAX：03-3202-5394

研修会のご案内

平成20年度第2回研修会を下記の通り千葉県にて開催いたします。

初日の実地技能研修では、高梨氏庭園、野田市市民会館（旧茂木佐兵衛氏）庭園にて庭園の管理状況などについて、所有者の方などからご解説いただき、2日目の実地技能研修では、野田市市民会館（旧茂木佐兵衛氏）庭園にて、空間構成、管理方針について会員諸氏と討議しつつ、実際の庭園において技術研修会を行います。

庭園の様々な事柄について、率直な意見交換が期待できます。ふるってご参加ください。

●平成21年1月24日(土) 会場：高梨氏庭園（千葉県野田市上花輪）、

野田市市民会館（旧茂木佐兵衛氏）庭園（千葉県野田市野田）

12：45 受付開始（上花輪歴史館＝高梨氏庭園）

13：00 開会

13：10 高梨氏庭園

解説：高梨兵左衛門氏（上花輪歴史館館長）「高梨氏庭園について」

星野保則氏（野田市教育委員会）「高梨氏庭園の文化財的価値について」

説明：平井孝義氏（石正園）「高梨氏庭園の管理について」

15：20 高梨氏庭園見学 移動

15：00 野田市市民会館（旧茂木佐兵衛氏）庭園

解説：星野保則氏「野田市市民会館（旧茂木佐兵衛氏）庭園について」

17：00 閉会

●平成21年1月25日(日) 会場：野田市市民会館（旧茂木佐兵衛氏）庭園

8：30～14：00 実地技能研修

14：00～15：00 講評

15：00 閉会

※ 参加を希望される方は、事務局（Tel：075-341-2600）までお申し込み下さい。

会場位置図

左下の矢印が上花輪記念館
（野田市駅から徒歩約20分）、
右上の矢印が野田市市民会館
（野田市駅から徒歩約10分）、



平成20年度総会ならびに研修会の報告

平成20年(2008)7月18日(金)、京都市上京区の相国寺において、文化庁、京都府、京都市より来賓を迎え、また、相国寺の江上泰山宗務総長にご臨席いただく中、本協議会の総会を開催しました。その概要をご報告いたします。

まず、本協議会玉根徳四郎代表、続いて江上宗務総長、来賓の文化庁記念物課本中眞文化財主任調査官よりご挨拶いただいた後、議事に入りました。

議事は総会資料に従い、先に平成19年度の事業報告・決算報告・監査報告、続いて平成20年度の事業計画ならびに予算が報告されました。

総会に引き続き、同会場で教養研修が行なわれました。

最初に、本中眞文化財主任調査官より、「名勝及び文化財行政に関する事項」と題して、昨今の文化財保護行政、とりわけ、新設された登録記念物制度の動向についてご解説いただくとともに、今後、名勝庭園の保護のためには、所有者・行政・専門家が連携して今後の保存に努めることが重要であるとのお話をいただきました。

続いて、安原啓示評議員より、「名勝庭園の保存に関する近年の事項」と題して、近年整備が完了した沖縄県の首里城内の庭園の復元整備についてご解説いただきました。

石灰岩の岩盤上にあった植栽を復元する際のご苦労や、往時の姿を知るにも文献史料では限界があり、これはどこの庭園の復元整備でも同じことがいえるので注意しなければいけないといったお話をいただきました。

最後に、尼崎博正評議員より、「小仕事技術について」と題して、おもに「たたき」の技術についてご講演いただきました。近年、発掘調査により非常に優れた意匠の漆喰の流れが見つかっていること、江戸時代中頃に書かれた「築山庭造伝」にも小仕事技術についての実践的な手法が記され、今でも同じ方法で「たたき」を仕上げている庭園が残されているなど、小仕事技術も庭園を支える重要な技術の一つであることが再認識されているとのお話をいただきました。



教養研修の様子

3人の方の講演による教養研修を終え、相国寺山内の裏方丈庭園ならびに開山塔庭園において実地技能研修が行われました。尼崎博正評議員より、両庭園の歴史や特徴とともに、相国寺山内を流れていた禁裏御用水と庭園との関係についてお話いただきながら、両庭園を実地に視察しました。

翌7月19日(土)、京都市左京区の国指定名勝の清風荘庭園において、実地技能研修が行われました。尼崎博正・龍居竹之介・中村一・丸山宏評議員の監修のもと、京都大学の森本幸裕教授より近年の状況などについてご助言いただきながら植栽の管理を行いました。

本来、清風荘庭園からは東に如意ヶ岳



実地技能研修の様子

(大文字山)が望めたことがわかっており、尼崎・龍居・丸山各評議員より、まずは清風荘から如意ヶ岳を含めた東山への眺望を確保することを中心とした作業を行うという方針が提示されました。その後、玉根徳四郎代表が全体の技術指導を行いつつ、4班に分けられた参加者は、各班の正会員を

中心として、樹木の剪定方法や、庭の景色のあり方などについて討議しつつ剪定作業を行い、各自技術の研鑽に努められました。

3日目の7月20日(日)も、前日に引き続いて、尼崎・龍居・中村・丸山評議員の監修のもとで清風荘庭園において実技技能研修が行われました。2日間の作業の結果、清風荘の主屋から如意ヶ岳への眺望が確保することができました。

最後に、各評議員ならびに技術指導にお越しいただいていた奈良文化財研究所文化遺産部遺跡整備研究室の平澤毅室長・栗野隆研究員より2日間の実技技能研修についての講評をいただき、また森本幸裕教授から、庭が本来の姿を取り戻してきたとのお礼の言葉をいただき、実技技能研修を終えました。



実技技能研修の様子

庭園学講座15開催される

本協議会では京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センターが主催する庭園学講座15「源氏物語と庭園」を特別教養研修と位置付けております。会員の方に開講のご案内をさせていただき、本協議会を通して、今回は8名の会員にご参加いただきました。その概要をご報告いたします。

講座は、平成20年(2008)8月29日(金)から8月31日(日)の3日間開催されました。

1日目は、京都造形芸術大学での本協議会評議員でもある京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センターの尼崎博正所長より、「源氏物語と庭園」と題して、源氏物語の記述と庭園の技法との関係についてのご講演から始まりました。続いて、(財)冷泉家時雨亭文庫の冷泉貴実子事務局長より、「和歌心と風情」と題して、和歌の文化的な位置付けと季節や時間帯に則した和歌の詠み方についてご講義いただき、さらに、京都造形芸術大学の芳賀徹名誉学長より、「源氏物語の感覚的空間」と題して、源氏物語にある情景の表現手法と、庭園などの空間との関係についてご講義いただき、午前中の日程を終えました。

午後は、現地研修として、京都御苑とその周辺にある宮廷文化などに関連する場所として、相国寺山内の相国寺裏方丈庭園・開山塔庭園・承天閣美術館、相国寺に隣接する冷泉家住宅、さらに京都御苑内の旧桂宮庭園を見学し、様々な邸宅・庭園の空間構成手法を実地で学ぶことができました。

2日目は、午前中は京都造形芸術大学での講義で始まりました。まずは、京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センター副所長の中村利則教授より、「空間の室礼と風情」と題して、平安時代の邸宅の室内構成についてご講演いただきました。続いて、京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センター主任研究員の末松剛准教授より、「平安時代の宇治―摂関家の宇治利用の検討から―」と題して、平等院を中心とした宇治の邸宅・寺院群の利用の方法についてご講義いただき、さらに、当協議会の事務局次長で、京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センター日本庭園部門長の仲隆裕教授より、「史跡名勝平等院庭園における洲浜整備」と題して、平成15年度に終了した、平等院庭園の主に洲浜の整備の検討や事業実施の経過についてご講義いただきました。

午後は、現地研修として、午前中の講義でとりあげられた宇治市内に会場を移し、平等院の庭園ならびに国宝建造物である鳳凰堂・宝物館である鳳翔館と、宇治上神社を見学しました。宇治の邸宅・社寺の空間構成について、講師の先生方から様々にお話をお伺いしました。

また、今回は正規の講座とは別に、宇治市歴史資料館の格別のご配慮により、発掘調査中の宇治川旧河川敷太閤堤遺跡を見学することができました。豊臣秀吉が築造させた宇治川の堤防「太閤堤」と、「太閤堤」に付属して検出された庭園状遺構をつぶさに眺めることができ、また、遺構の状況については宇治市歴史資料館の杉本宏係長より詳しくご解説いただきました。

3日目は、午前中は現地研修として、京都に残る近代庭園の一つである何有荘と大寧軒を見学しました。両方ともかつては近代に政財界で活躍した稲畑勝太郎の邸宅で、何有荘では、尼崎所長とともに京都工芸繊維大学の矢ヶ崎善太郎教授や実際に庭園を管理している当協議会の加藤友規研修会員より、庭園・建物の歴史や特色、現在の管理の手法などについてご解説いただき、また、大寧軒では、仲教授より、庭園の歴史やその特長についてご解説いただきました。

午後は、京都造形大学でのシンポジウム形式の講義となりました。まず、本協議会評議員でもある京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センター顧問の中村一教授より、「庭園と風情」と題して、古来、風情を感じる、あるいは庭園において風情を感じる状況を源氏物語から読み解くとはどうなるのかについてのご講義で始まりました。続いて、話題提供として、京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センター主任研究員の曾和治好教授より、音環境から推察される桂離宮庭園と對龍山荘庭園の鑑賞方法についてお話いただき、さらに、京都造形芸術大学大学院芸術研究科の小泉祐貴子さんより、源氏物語に登場する香りから分析した庭の特色についてお話いただいた後、質疑応答・討論に入りました。

討論では、庭園と周辺環境との関わりや、庭園内部の様々な構成環境のありかたについて討論がなされ、最後に尼崎博正所長により、庭園の風情を味わうには5感を活用することが必要であること、歴史の変遷の中で風情の味わい方も変化しているが、その方法はただ1種類ではないとの総括をいただいた後、閉講のご挨拶をいただき、3日間にわたる講座を終了しました。

平成20年度技能技術練磨事業及び第5回文化財庭園フォーラム開催される

平成20年(2008)10月17日(金)～19日(日)の3日間、大分県玖珠町において技能技術練磨事業及び文化財庭園フォーラムを開催し、20名の会員にご参加いただきました。文化財庭園フォーラムについては、本協議会の主催、大分県教育委員会、玖珠町、玖珠町教育委員会の共催のもと、本評議員会の龍居竹之介・尼崎博正・丸山宏評議員の監修で、廣瀬慶寛副代表を筆頭に見学会・シンポジウム共に一般公開形式で行いました。その概要をご報告いたします。

10月17日(金)、18日(土)には、大分県玖珠町に所在する旧久留島氏庭園を研修会場にして、技能技術練磨事業を実施しました。剪定技術により、どのようにして本来の庭園の姿を取り戻すか、評議員、会員諸氏で討議した上で、廣瀬慶寛副代表が全体の技術指導にあたり、正会員を中心に管理実技が進められました。そして18日(土)には、文化財庭園フォーラムの一環として文化財庭園保存管理技術見学会を開催し、旧久留島氏庭園の歴史やその価値について解説するとともに、本協議会技能会員の庭園管理技術を広く一般の方に公開しました。



技能・技術練磨事業の様子

旧久留島氏庭園の庭園は、かつては御殿に面した丘の斜面に広がる庭園で、丘の途中に栖鳳楼と呼ばれる建物があり、御殿から滝石組のある池庭を眺める景と、栖鳳楼からの周囲の山々を見渡す眺望を楽しむための庭と考えられますが、樹木の伸長などにより、池庭部分の豪快な滝石組や丘の斜面などが見えにくくなっていました。

そこで今回は、斜面上に大きく伸長している高木の強剪定を中心に、滝石組周辺の低木・地被の刈り払いなど行った結果、滝石組がはっきり見えるようになることと共に、御殿跡から丘の稜線や栖鳳楼の建物が透けて見える状態にすることができました。この作業の様子を眺めていた見学者の方からは、やや鬱蒼としていた暗い感じの庭が、滝石組などがあらわになったことで、明るい感じでありながら力強さも感じられる庭本来の姿への変貌に感歎の声があがり、庭園の本来の姿が取り戻されたという実感とともに、今回の研修の成果を確認することができました。



見学会の様子

なお、今回の技能技術練磨事業の実施にあたっては、藤野造園など、玖珠町、九重町の造園業者の方々にもご支援いただきました。本協議会会員と協同しての剪定作業に始まり、剪枝の処分など、裏方の仕事までもこなしてくださった関係業者の方々にこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。

10月19日(日)は、場所を旧久留島氏庭園に隣接する玖珠町立わらべの館をお借りして、文化財庭園フォーラムのシンポジウムを開催し、本協議会の会員を含めて約80名にご参加いただきました。第1部の講演会では、奈良文化財研究所文化遺産部遺跡整備研究室の平澤毅室長より「名勝地としての文化財庭園」と題して、文化財保護法の制度とその変遷とともに、庭園の文化財指定の経緯や、今後の名勝庭園のあり方としてなどについての講演をいただきました。



講演会の様子

第2部パネルディスカッションは、「文化財庭園を維持する技」をテーマにすすめられました。コーディネーターを文化財指定庭園保護協議会の樋渡達也会長にお願いし、パネラーには大分県教育委員会文化課吉永浩二参事、玖珠町教育委員会社会教育課の佐藤祐二主査、京都造形芸術大学の尼崎博正教授、龍居庭園研究所の龍居竹之介所長、名城大学の丸山宏教授に、講演をいただいた奈良文化財研究所文化遺産部遺跡整備研究室の平澤毅室長をむかえて議論が交わされました。

まずは、パネラーの方々からの報告がはじまりました。まず、吉永浩二参事からは大分県内の庭園の保護

の経緯について、続いて佐藤祐二主査からは旧久留島氏庭園の保護の経緯についてご報告いただきました。

そして尼崎博正教授には、旧久留島氏庭園は周囲の山々も庭の要素になっている点に大変な特徴があり、旧久留島氏庭園を守っていくためには玖珠の山並も保存していく必要があること、そして、みんなが大切に手を入れることで庭園は残っていくことをお話いただきました。また、続いて丸山宏教授からは、愛知県・岐阜県での庭園保護の実状として、今に至っても斬新なデザインを持つ庭園が「発見」され続けていること、そうした庭園の保護には市民運動が欠かせなかったことをお話いただ

きました。さらに、龍居竹之介所長からは、庭はみんなが「いい」と思っはじめて価値があること、庭を守るのは人であり、旧久留島氏庭園のように公開されてこそ、みんなが大切に思うことができること、旧久留島氏庭園もみんなで大事に、時に厳しく育てていかなければいけないことをお話いただきました。

こうしてパネラーの報告の後、パネルディスカッションとなり、庭園の捉え方や保存・維持管理について様々に議論が交わされました。

そして最後に、樋渡達也会長に、庭はみんなのものであるから、みんなで大切にするという気持が庭園の保存や指定につながることに、旧久留島氏庭園も、その雰囲気素晴らしさがその第一の見所であり、誰もがみられる庭であるので、みんな庭の雰囲気にふれてその大切さを認識しながら、今日のシンポを庭園保護の第一歩として、みんな考えながら庭を守って欲しい、と締めくくっていただきました。



パネルディスカッションの様子

なお、フォーラム終了後に、玖珠町内にある国指定史跡の角牟礼城跡（つのむれじょうあと）の見学を行いました。中世に築造され、安土桃山時代の改修で立派な石垣を有するようになった山城の石垣を間近に見ながら、その頂上から玖珠の山並みを眺めて後、龍居竹之介・尼崎博正・丸山宏評議員ならびに奈良文化財研究所文化遺産部遺跡整備研究室の平澤毅室長・栗野隆研究員より全体の講評をいただいて、3日間の研修を終了しました。

文化庁主催シンポジウム「文化財保存技術2008-文化財を支える『伝統の名匠』-」開催される

平成20年(2008)10月25日(土)・26日(日)、香川県高松市のサンポート高松 高松シンボルタワーにおいて、文化庁主催シンポジウム 『文化財保存技術2008-文化財を支える『伝統の名匠』-』が開催されました。

当日は選定保存技術保存団体23団体が一同に会し、各団体の後継者育成の取り組みや、保存伝承活動についての報告がありました。本協議会では事務局2名が出席し、本協議会の活動を広く認知してもらうため、実技技能研修や技能技術錬磨などの研修会の状況のパネル展示を行いました。

今回は通常のプログラムに加え、各団体の活動内容の発表の中で、本協議会の賛助会員で事務局次長でもある(株)環境事業計画研究所の吉村龍二所長から、本協議会の活動内容について写真などを交えながらご紹介いただきました。

新規加入会員の紹介

平成20年(2008)12月末日で技能会員は113名、支援会員・賛助会員は19団体、5名となりました。ここに新規に入会された方をご紹介します。

会員種別	氏名	所属	所在	会員種別	氏名	所属	所在
準会員	吉田 茂	(株)吉田造園	滋賀県	研修会員	小林 賢	(財)会津若松市観光公社	福島県
準会員	大西啓史	大西造園(株)	京都府	研修会員	関 智美	金網造園事務所	東京都
準補会員	小島尚人	大畑一草園	長崎県	研修会員	倉本冬樹	(財)三溪園保勝会	神奈川県
準補会員	柏村浩二	(財)三溪園保勝会	神奈川県	研修会員	川島 武	(財)三溪園保勝会	神奈川県
準補会員	鈴木 正	(財)三溪園保勝会	神奈川県	研修会員	山田耕三	花豊造園(株)	京都府